

令和2年度ホンビノスガイ資源管理推進対策事業計画

1. 目的

東京湾北部地区の貝類漁業は、アサリの漁獲低迷が続く中、ホンビノスガイの漁獲量が年々増加しており、平成30年の漁獲量は約2,500トン、金額は約3.5億円となるなど、同地区の貝類漁業者にとって重要な魚種となっている。

ホンビノスガイは外来種のため、国内の資源状況や生態に係る知見が少なく、資源管理の手法も確立していない。このため、三番瀬海域を中心に基礎的情報である漁獲動向、分布、産卵期及び成長を把握するための調査や資源管理検討会議を行い、漁業者の資源管理の取組を推進する。

2. 内容

(1) 漁獲動向調査

- ・資源動向を分析するため、関係組合から漁獲量や漁獲努力量に関するデータを収集し、当該情報をデータベース化する。(関係組合：市川市漁協、船橋市漁協)

(2) 分布調査

- ・三番瀬海域において、漁業者と協力した調査を実施し、ホンビノスガイの分布状況をモニタリングする。

(3) 漁獲物調査

- ・ホンビノスガイの産卵期及び成長を把握するため、毎月1回漁獲物を買上げ、殻長、重量及び軟体部重量を測定、肥満度の季節変化をモニタリングする。
- ・また、軟体部を固定液で保存して春～夏の産卵期、成熟サイズを把握とともに、貝殻を保存して貝殻の断面により年齢査定を試みる。

(4) 資源管理に関する検討会

- ・関係組合とホンビノスガイの有効な資源管理方策について検討会を行う。

ホンビノスガイの知見について

1) 産卵期、成熟

- ・東京湾では、春～秋季の年2回（春、秋に稚貝が加入する場合が多い）と報告されている。
- ・一方、成熟をみると、殻長50 mm以上の生殖腺は成熟期で占める。
- ・殻長23 mmの雌で成熟期個体を確認。
- ・殻長20 mm未満では全て未成熟期。

2) 浮遊期間

- ・1～3週間程度（水温による）

3) 成長

- ・地理的差異がある。
- ・小型個体ほど成長が速く、早ければ1年で殻長30 mmに達する。
- ・船橋海浜公園（水深0.5m）、お台場海浜公園（水深2～4m）、お台場船の科学館（水深2～3m）では、船橋の成長が一番速い（裏面図：博士論文、杉原）。

4) 寿命

- ・海外の文献では、15年以上生きることがわかっている。

5) 稚貝加入

- ・複数回見られるが、成長を追跡できない場合が多い（捕食？環境条件？）。
- ・これまでのアサリを主体とした貝類資源調査によると、三番瀬では10月に稚貝の加入が見られる。

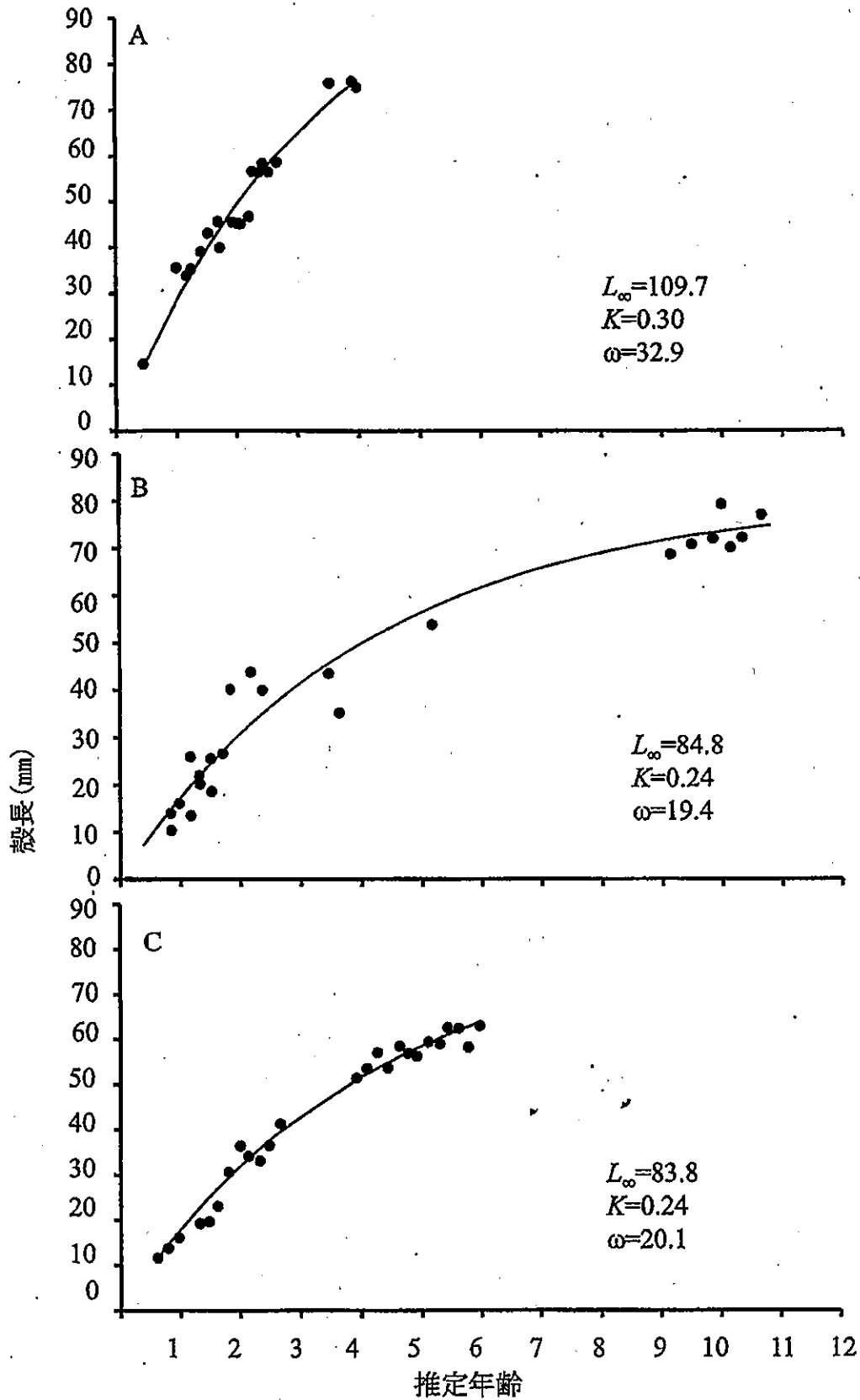


図3-11. (A) 船橋、(B) お台場海浜公園および (C) お台場船の科学館におけるホンビノスガイの成長曲線. コホート解析による各コホートの中央値から年齢を算出し、von Bertalanffyの成長式にあてはめた.